

## 神の国の教え⑧安息日のいやし

ルカ13:11-21  
2012,12,16 HKJCF

## I 概論

序)①神の国の入国法②神の国のいのちの原理

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1、安息日のいやしと非難 | 10-14 |
| 2、安息日の真の意味   | 15-16 |
| 3、神の国のたとえ    | 18-21 |
| 4、結論         |       |

適用)あなたは愛と恵みに留まるのが先ですか、恐れとプライドから来る働きが先ですか 禁止令やストレスは多いですか

## II 安息日のいやしと非難

- 1、女の状態:抑圧・批難・罪責感
- 2、主のいやし:宣言・接点・聖霊の力
- 3、会堂管理者の批難:
  - ①偽善:本質と現象の逆転
  - ②自己中心と傲慢:弱者への共感性の欠如・裁き・自己吟味の無いかたくなな心
  - ③禁止令:抑圧・支配・安全圏
 ⇒祝福が批難へ(真の問題は解決されず)

## III 安息日の真の意味

- 1、創造の完成の感謝(創世記)
- 2、民族的救いの感謝(出エジプト記)
- 3、全人類の救いの感謝:十字架・復活・聖霊降臨(使徒行伝)⇒①神様のみ業に先立たず②神様からの救いを感謝し③神様の愛・新しいいのち・聖霊の力に満たされる日(律法から聖霊の自由へ)⇒禁止令から、恵みに満たされ、恐れとプライドでなく大胆に主の愛で生かされる方向へ

## IV 神の国のたとえ

- 1、からし種の成長:驚異的な成長力
  - 2、パン種の成長:全世界への影響力
  - 3、神の国の法則:いのちの原理
- ⇒①業績主義・禁止令・安全圏・律法主義・競争原理から生命原理へ②律法からの解放・新しいいのち・聖霊の力③人生全体・世界への影響と宇宙万物の新創造へ

## V 結論

- 1、イエス様は抑圧された女を解放した
  - 2、会堂管理者は女以上に自分と隣人を抑圧していたことに気が付かなかった
  - 3、自分の働きで良くなろうとすると禁止令と業績主義で自分自身をがんじがらめにし、偽善と他者への裁きに至る
- ⇒神の国の原理は福音の生命原理、神様から愛され恵まれた分神様と隣人に分かち合い、仕えれば十分 そのために十字架・復活・聖霊がある(ヨハネ15:5)